

2019 年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立生野高等学校

活動の実際（単元名）

- ① 学校設定科目「観光・グローバル学習」（授業参加）
- ② 茶道体験学習（交流お茶会）

指導目標

- ① 特別支援学校の生徒との授業での交流をととして、共に尊重し合いながら協働していく態度を育む。
- ② 茶道部生徒が日頃の稽古の成果を発揮し、茶道を通して交流を図る。

事前学習

- ① 授業参加
 - ・担当者同士で、当日の流れや配慮すべき点について確認
- ② 交流お茶会
 - ・円滑に実施できるよう生徒役割分担、グループ分け、当日の流れについて確認

学習活動（具体的な取組）

- ① 授業参加
 - ・和田山特別支援学校の生徒による学校紹介および活動報告
 - ・生野高校生が考えた地域にまつわるクイズ「IKUNO検定」にチャレンジ
- ② 交流お茶会
 - ・茶道についての説明をする
 - ・お茶席体験（和特生徒が客、本校生徒が点前をする）
 - ・和特生徒によるお茶体験のサポート（ペアワーク的活動）

支援と留意点

- ①
 - ・生野高校生のしっかり聞く姿勢
 - ・グループに分かれて分かりやすく説明する。（ヒントも用意する）
 - ・正解時には、拍手等をする。
- ② お茶体験の場で各ペアが円滑に交流できるよう配慮にする。

評価

- ① 授業参加
 - ・和田山特別支援学校の生徒のプレゼンテーションをしっかりと聞くことができた。
 - ・声かけをすることで、スムーズにグループに溶け込めた。
- ② 茶道体験学習（交流お茶会）
 - ・始めは互いに緊張しているように感じたが、ペアワークによる茶道体験を通して次第に自然な会話や笑顔も見られ楽しく交流ができた。

活動の様子



- ①英語の授業への参加
和田山特別支援学校の発表を傾聴



- ②茶道体験学習（交流お茶会）
楽しかった交流お茶会を記念して。

事後学習

- ① 授業参加
 - ・感想、気づいたことを共有 等
- ② 茶道体験学習（交流お茶会）
 - ・感想、次回に活かせる内容について 等

成果と課題

- ① 授業参加
 - ・英語等の授業の参加はあったが、今回は探究型の授業での交流となり、お互いの双方向的な交流となり、生野高校生にとっても貴重な機会となった。
- ② 茶道体験学習（交流お茶会）
 - ・本年度で3回目となるこの取組みは昨年参加した1年生が2年生となり自覚と責任を持って臨むことが出来た。（継続の成果）
 - ・両校の参加人数に差がありペアワークに工夫が必要である。（課題）